

2023 年度 活動報告書

2023 年 4 月～2024 年 3 月

一般財団法人
再工不協同基金



Instagram



Facebook

ごあいさつ



今、世界では暴走する地球温暖化危機の中、脱炭素社会に向けて新しい動きが始まっています。日本政府が「2050年CO₂排出ゼロ」を宣言した今、市民社会の構成員として、私たちもこの目標達成に向けて動かねばなりません。再エネ協同基金も2025年までの長期計画を策定しました。これからは、各家庭においても気候変動対策としての行動を積み重ねていかねばなりません。今年度から市民のエコ活動支援制度を拡張したいと考え、再生可能エネルギー普及への取り組みと、地球温暖化防止に繋がる温室効果ガス削減のための活動を奨励する助成金制度を広げてまいります。皆様、こそでご参加いただけますようお願いいたします。理事長 森 宏之



2023年の気温は、世界でも日本でも史上最高を記録し、地球沸騰化状態でした。そこでCOP28では、気温上昇を1.5℃未満に抑制するため、「再エネを2030年までに現在の3倍に増加」「エネルギー効率の向上」「化石燃料からの脱却を加速」等を合意しました。昨年の世界の再エネ発電導入量は前年比1.5倍に増加して史上最高を更新し、2030年3倍増の可能性も生まれつつあります。ところが、日本では原発重視政策の下、再エネ導入は停滞し続けています。国際社会と未来世代への責務を果たすためにも、再エネ協同基金の取り組みにご参加いただき、私たち市民の力で再エネ100%社会を実現しましょう。

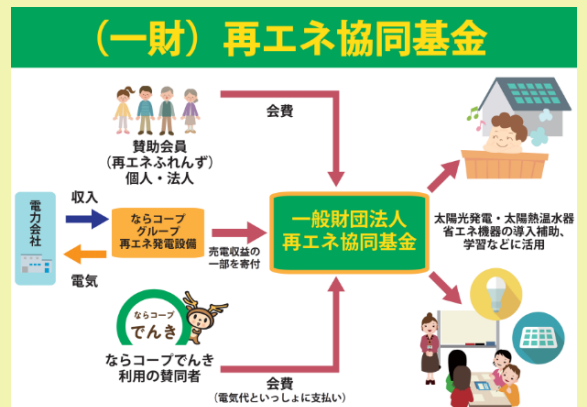
評議員長 和田 武

2023年度 会員数・会費の使いみち

2023年度助成事業 助成額 1,990,000円

個人会員 854人
法人会員 30団体

項目	申請件数	助成金額	
太陽熱温水器	40,000	0	
ペレットストーブ・薪ストーブ	40,000	1	40,000
太陽光発電 1kWあたり	10,000	13	500,000
おひさまエコキュート	5	150,000	
住宅用定置型蓄電池 1kWあたり	10,000	15	600,000
ポータブルバッテリー	1	10,000	
断熱窓	12	265,000	
冷蔵庫、エアコンの賞替	5,000	1	5,000
節水型トイレ 一台につき	10,000	3	50,000
電動アシスト付き自転車	10,000	2	20,000
発電事業	50,000	2	100,000
EV購入	50,000	4	200,000
V2H導入	100,000	1	50,000
調査研究・学習活動	50,000	0	0
合計	60	1,990,000	



2023年度 学習活動（参加人数のべ 209人）

NPO 法人奈良ストップ温暖化の会やア・マ・テ・ラ・ス等と協力し 15 講座を開催し、多くの方にご参加いただきました。

「鍋帽子®づくり」と「鍋帽子®を使った保温クッキング」では、コーヒーチキンや蒸し野菜の美味しさに歓声があがり、美味しさとエコが両立することをお伝えできました。「創エネ、蓄エネのある暮らし」では廃物利用の楽しいエコグッズが多数紹介され、手回し発電機でそれらを動かして盛り上がりました。

「うだ夢創の里での野外エコクッキング」では、かまどや石窯で調理をし、電気やガスに頼らない調理法を学びました。又、地場野菜を食べることで、フードマイレージを減らし、地球温暖化防止に貢献できること、その方が新鮮で美味しいことを体感しました。2024 年度も、楽しみながら生活の中に取り入れていけるエコを目指して、様々に役立つ講座をお届けしていきます。是非ご参加ください。



5/25 陽楽の森散歩



7/7 ソーラーランタン作り



9/2 創エネ、蓄エネのある暮らし



9/7 鍋帽子®作り



10/18 曽爾村満喫体験



10/15 うだ夢創の里野外エコクッキング



9/28 鍋帽子®を使った保温調理



11/10
つくばね発電所見学



11/23 春日山原始林散歩



12/9
ロケットストーブ作り



2/8 火を囲むカフェ&風呂敷の包み方

命を守る、健康促進や省エネ効果も期待できる！！
長時間居る1部屋だけでも、断熱改修工事をしませんか？

健康・省エネルーム「ひと部屋断熱」

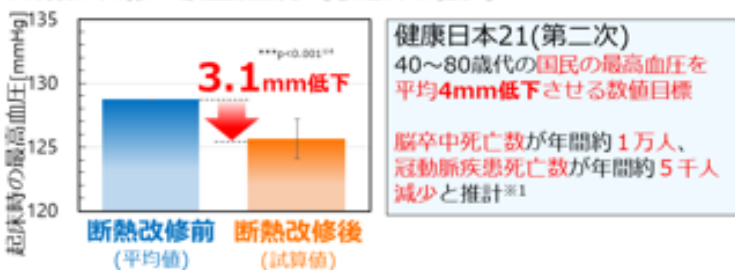
●冬季室内温度18℃以上を保てる住まいと健康との関係について●

WHO(世界保健機関)は「住まいと健康に関するガイドライン」で、寒さによる健康影響から居住者を守るための室内温度として18℃以上を強く勧告し、また、寒い季節がある地域の住宅では新築時や改修時の断熱材設置を条件付きで勧告しています。

WHOの勧告や、これまで日本で行われてきた室温差による健康調査(国土交通省SWH査住宅等推進調査事業)によるエビデンスを受け、2024年4月から厚生労働省が国民の健康の増進の総合的な推進を図る為の基本的な方針である「健康日本21」(第3次)の中に、「冬季室温18度以上」が勧告されている。また、「近年、我が国においても、室温が血圧・睡眠等の健康状態に影響を与える」と言う住環境が与える健康について初めて記載されました。

改修前後調査から得られた知見-2.2

断熱改修で血圧が有意に低下



Ikaga Lab., Keio University 国土交通省補助事業 スマートフェルナス住宅推進調査委員会 第7回報告会 2023.2.14 より

1



礼文町モデル事業断熱改修工事例(床断熱)

●命を守る1部屋 健康・省エネルーム「ひと部屋断熱」とは？●

SWH調査の結果からも断熱性能の高い住まい(新築/全面・ゾーン断熱改修リノベーション)で家全体や1階居住空間が、WHOが推奨する室温18℃を下回らない住宅性能を造る事が最良ですが、上記のような断熱改修工事には数百万円以上の工事費用がかかります。

「ひと部屋断熱」とは改修工事費を100~150万円程度に抑え、最低でも寝室や長時間滞在する空間として使用するリビングなどの「ひと部屋」だけでも冬季室温18℃を下回らない部屋(シェルター)として家の中に設ける事により、猛暑日や極端に外気温が低い日には改修工事済みの部屋ですごしてもらうというご提案になります。

また、「ひと部屋」の断熱性能を上げる事で冷暖房にかかる光熱費が削減され、省エネ効果にも繋がります。(北海道 礼文町でのモデル事業では冬季の灯油使用料が約40%軽減されました。)

部分的な断熱改修工事の場合、ヒートショックの問題もありますが、対策として短時間しか利用しない空間については、部屋から出る際には1枚上着を羽織ってもらう、トイレ・脱衣所には人感センサー付の電気ファンヒーター(価格は数千円)を設置してもらう、浴室は先にシャワーを出してもらい入浴前に浴室を温めてもらうなど、住まい方による対策も提案しながら、居住者の金銭的負担を出来る限り少なくする為に「工事費を抑える」・「工事期間を短くする」・「廃棄物を減らし再利用する」などをメインに考え、最低限、命を守る為に「ひと部屋」だけでも断熱改修をしませんかという提案になります。

※再エネふれんず(法人会員) ㈱スペースマイン様より寄稿

~賛助会員再エネふれんず) 募集~

再生可能エネルギーや省エネルギーを推進する仲間、再エネふれんずを募集しています。一緒に地球の未来を考えましょう。年会費 1口1,000円(個人会員1口以上・法人会員(非営利法人を除く)10口以上)

再エネふれんずになると助成金の給付のほか、学習企画参加費の半額補助が受けられます。加入をご希望の方は下記2次元コードからGoogleフォームにて必要事項を入力し、口座に年会費をお振込みください。

ホームページ: <https://www.naracoop.or.jp/saiene/>

〒630-8503 奈良県奈良市恋の窪一丁目2番2号

TEL. 0742-33-9528 FAX. 0742-34-8060 email saiene@kyodokikin.com

